

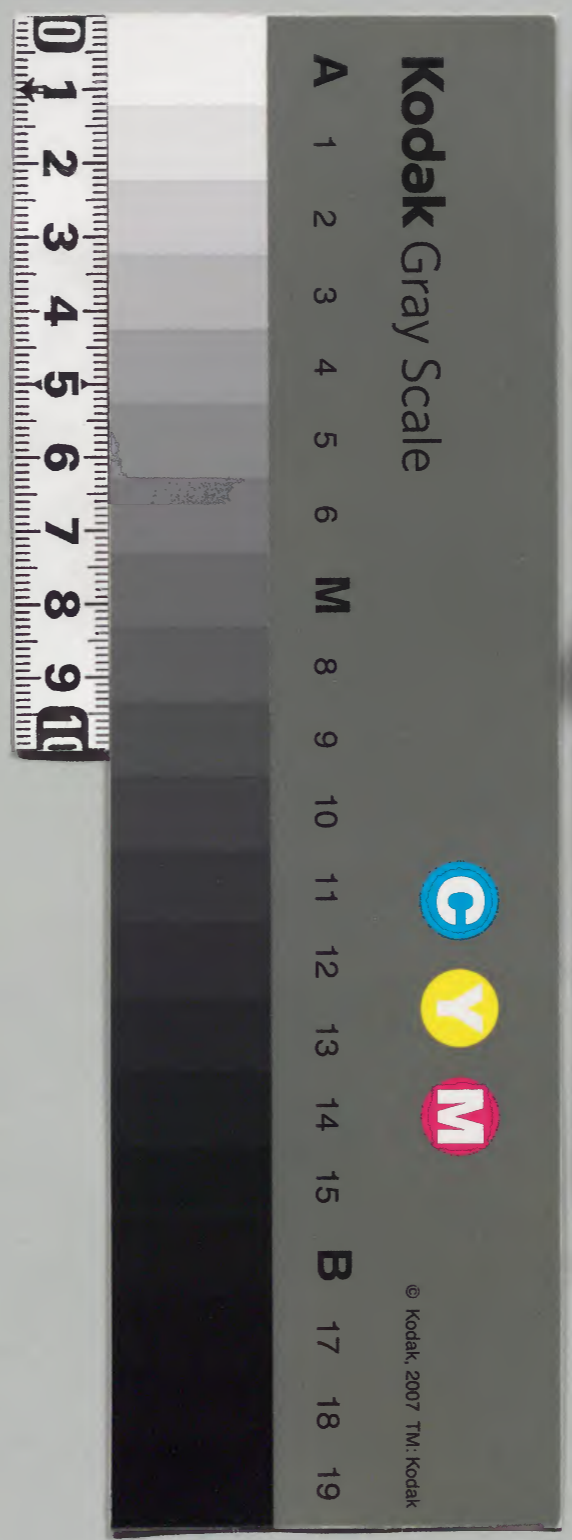
日本書紀傳 廿三卷 七止

和書
10522號

八十

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156 (89)	
函號	附	85 1

内閣文庫



教部省
文庫印

南政直
文庫

清
文庫印

内一二六八三號

己而素戈鳴尊遂就於根國矣

す事を聰敏く聞持たせ給ふ義あるか(此)皇太子の推
古天皇の大御政を攝ね申給へるに准へて此二神
の稻田宮主として須賀宮の大御政を攝ね給へる事
をも知べくらむ上二百八十丁引る職員令東宮坊
元中宮職大夫の下も掌吐納啓令事と有る義解の
謂納啓於上吐之於下也と有る亦八箇身の所以小近
りる者あり
己而ハ此少くハ事託而云あか如くあるが其須賀
宮を右の二神に委任せ置させ御在り坐て其御子

○日本書紀傳二十三

○二百九十一

と御祖とを留め残させ御在り坐て直に根國に就り
御在り坐て狀ありしは此大神の御大業にハハ此ハ
大己貴神の受継せ御在り坐る是此の大經なるが故
に其神の御事迹ハ一書共ハ明らるるを以て其他
の事共ハ惣て略き漏さるる者あり然れども此素
戔鳴大神の此より後の顯國にて得建させ給ひける
其大造の御功績の御迹ハハ猶幾許ハ御在り坐る
心數ハ限らぬ知らばせ御在り坐る御事あるを
古事記を始として其餘の諸書の散見する者猶許多
有り故今ハ其御事迹を拾ひ集めて其御盛徳の較略

を百千が一も明らめ奉らむとす若て此ハ素戔鳴尊
遂就於根國矣と有る事ありども其ハ大己貴神の生
長らせ給ふ狀を見認させ給ひてハ必出來させ御
在り坐よらば所謂ある御在り坐る其ハ何を以
たるぞと云ふ其始ハ高天原より日神の辭見して天
降り御在り坐來らせ給ひて此顯國に暫時も留
住せ給ひむとハ所思しも寄せ給ひざりしうとせ彼
大蛇を事向させ給ふに至りて奇稻田姬命を后神と
爲させ給ふ可き勢ハ自然ハ成行らせ給ひ其ハ就て
ハ后神と適合爲給ひむ宮室を營らせ御在り坐て同

宮の共の住せ給ふ可き御事とて成以て行つて終
ふ其神を^後して御兒大己貴神を令生給ひ此^後に其
御母子二神を其須賀宮の留めさせ給ひて又別ある
處の物爲させ給ひ外あるが其御兒神の消息を伺ハ
せ御在り坐けよ果して八十神の事故有り此の縁
て御父子共の相遇給ひ其御兒神の御徳の眞盛の御
在り坐す程を見奉らせ給ひて終ふ大國主神と成り
奉らせ給ひて御心の残る隈無く物爲させ給へり
後みとる根國の御在り坐し著せ給ひけり^此
所思りけり^然大己貴神の御所業と成れる以て

凡てハ略う水なり者之所見たるあが其大神の
御事迹を心得む少い此を取入て此を知す有べり
あり其一の國引の御故事あり此ハ上八百八十小
註るか如く素戔嗚大神須賀宮の御在り坐て奇稻田
姫命の過給へる初より大己貴神を令生給へる後ま
て係て物爲させ御在り坐けり少て其ハ出雲國の事
あり其より諸國を巡り作らせ給へる此上文の因
勅之日吾兒宮首者即脚摩乳手摩乳也と有る其時小
御母子二柱を其箱田宮主神に託て^{何れの國}物爲させ給
ひける程の御事と所見たる者^{國引の御名を}八束水臣津野命と申
奉り御事ハこの上二百五十一丁小徴し奉り如く全く

此大神の御名小渡とせ給へり由出雲風土記の所以
號出雲者八束水臣津野命詔八雲立語之故云八雲立
出雲と有る是即上の謂ゆる夜句茂多菟の神詠ある
を以知べし次に所以號意字者國引坐八束水臣津野
命詔八雲立出雲國者狹布之稚國在哉初國小所作故
將作縫詔而云國來引來縫國者自去豆打絶而
八穗米支豆支乃御埼也此而堅立加志者石見國與出
雲國之堺在有名佐比賣山是也亦持引網者菌之長濱
是也亦云國來引來縫國者三穗之埼也持引
網者夜見島是也固堅立加志者有伯老國大神岳是也

△初國所作の御言
柱御祖神の生置也御
在坐ける其國の全
体の事をい語させ
給へり此事傳
廿九百九十九
備上

今者國引訖詔而意字杜尔御杖衝立而意惠登詔故云
意字所謂意字杜者郡家東北邊田中在之所見たる
古小出雲國と云けりハ風土記の謂ゆる意字飯石仁
多大原四郡の地ありけりを更の國引坐て島根秋鹿
楯縫出雲神門の五郡の當る地ハ全く其時の出來成
りありけり諸右の佐比賣山ハ神名式小石見國安
濃郡佐比賣山神社御在坐す是なるが其ハ須佐比
賣の略と聞えたる小其相對へる大神岳ハ同式ハ伯
耆國會見郡大神山神社と所見たる大神ハ即八束水
臣津野命小御在坐て即素戔嗚大神小渡とせ給ふ

が故小崇まてハ御名を申さず直小大神岳と云うハ
 申習ひたりけり此二山相並立るハ即其素戔嗚大
 神御夫婦小渡りせ給ひて中間小御杖を衝立させ御
 在り坐て東西小御在り坐す御事ハ彼伊弉諾伊弉册
 二神の大柱を中間小置て御夫婦の御語り御在り
 坐ける小奇りき迄能類相御事共あり右の御杖を
 へり塾の事ハ傳六卷三十一丁礮取盧島下引
私記小古説云天神所賜瓊矛探得礮取盧島畢即以
 其矛衝立此島為國柱也即其矛化為小山也然して同
 と有る其事の状由亦相通ひて聞ゆるハ然して同
 記小所以號島根者國引坐八束水臣津野命之詔而負
 給名故云島根と所見たる島根と云けりハ古小肥川

△記小同郡朝野
 郡家正南二十八里
 八十四步態野太神
 命詔朝御籙勅
 養々御籙勅養
 五贊組之處定
 給故云朝野有
 能野大神素
 戔嗚尊とて渡
 りせ給へり其四
 世孫よて家美豆
 奴神ハ其贊處
 といれ其贊處
 と定りてせ給へ
 許ハ又世と經
 ず（定り）
 給小至りて御
 御事あり此を以
 ても古事記の世
 數誤有之知

の西に流れて島あり一時の根えと云ふ義以て号け
 させ給ふ所あるが同郡千酌御驛郡家東北一十九里
 一百八十步伊佐奈积命御子都久豆美命此處坐然則
 可謂都久豆美而今人猶千酌號耳之所見たる此都久
 豆美命と申すハ傳八六十二二百七十一小徴一奉れ
 るが如く月夜見尊の御事小渡りせ給へり即此素
 戔嗚大神の御事あり此を以ても古事記小淤美豆奴
 神を其四世孫と爲る事の誤れるを知べきなり其ハ
 此大神の己み根國の御在り坐けむ（其）其（其）後小
 出来れた地み其住せ給ふ可き謂の且ても無き事か

べきありて素
素戔嗚尊と八束
水臣津野命と
同神にて御在
一聖子御事と
明く玉可く又同

るを知べし又杵築郷郡家西北二十八里六十歩八束
水臣津野命之國引給之後所造天下大神之宮將奉與
奉與諸皇神等參集宮處杵築故云寸付神龜三年又有
ハ天孫降臨章第二一書み謂ゆる大己貴神の天日隅
宮の御事あるが國引給之後と云ハ素戔嗚大神の己
み國引給ひ置し其地盤の右を更み宮造り仕奉らるし
み就てハ猶其上を築き固めさせ給へるとあり又右
かて國引坐と云ハ所造天下と云との差別判然と所
見たるあり其ハ國引と云ハ其文子見えたる如く有
餘を取て不足を補綴オキリし事ハて國の格好カクコを成し整と

了を云ひ所造天下と云ひ又作國と云ハ其大休ハ
抱ハる事無く田野山川を修理し事足らぬ又右ハ八
束水臣津野命と所造天下とを引續けて書せるハ此
正書の如く素戔嗚尊の御子即大己貴神にて渡りせ
給へる趣あり又其次ハ同郡伊努郷郡家正北八里七
十二歩國引坐意美豆努命御子赤衾伊努意保須美比
古佐倭氣命之社即坐郷中故云伊努農神龜三年と所
見たる此神ハ傳十五二百九十四丁十八三十八丁註るが如く
熊野大隅神命ハ渡りせ給ひて即天照大神素戔嗚尊御
誓の御時ハ生出させ御在し坐ける謂ゆる五男神の

又下三百二十号
 此雲神賀詞
 と引て去る柳御
 氣野余と申奉
 る大御名は天上
 あり神速にさ
 給ひて後子國
 土人民の衣食
 住の幸と幸給
 ひ謂ゆる天下を
 所知食一御
 名あり其條

中の一神みて渡らせ給へれば右の意引坐意義豆努命御子
 と有ハ即素戔鳴尊御兒と申さむ異あらずあむ有
 ける此を以て右の八束水臣津野命と申奉れるハ
 愈以て素戔鳴大神の御事みて渡らせ給ふ由を思ふ
 可ま者あり但素戔鳴尊と申奉れるハ其全体の
 命と申奉るハ其國引坐る御事あり給ひ八束水臣津野
 專係りたる御名あり思混ふ可はず右の引る風土
 記の文四所共ハ八束水臣津野命の御事ハ國引坐
 と冠あらせ奉れるハ風土記の例大己貴神ハ何處
 あるも所造天下大神大穴持命と冠あらせ奉れると
 同ト夏あり諸國引坐と有ハ誰が心を出雲國をのみ

繪作させ給へる御事と一向思ひたためれども其ハ
 甚稜き見解と云者ありけり己子皇太神宮祈年月次
 等祭詞ハ皇祖天神の大御言ふして謂ゆる天津祝
 詞の大祝詞事と云物あるハ其文の中ハ狹國者廣久
 峻國者平久遠國者八十細打掛ハ引寄如事皇太御神
 能寄奉波と所見たる狹國者廣久と云ハ海岸の地處
 の弥増ハ土砂を寄せて廣大ハ成る事を云ハ峻國者
 平久ハ山岳の險阻ハ七歳年ハ平坦ハ成して田
 畑の殖る事を云ハ若し遠國者八十細打掛ハ引寄
 如事と云ハ全く八束水臣津野命の故事あるみて風

土記ある國引の文も國之餘ニ有耶見者國之餘有詔
而童女胸鈕所取而大魚之支太衝別而波多須ニ支
穗振別而三自之網打掛柱而霜里葛聞ニ耶ニ尔河
船之毛ニ曾ニ呂ニ尔國ニ来ニ引来縫國者らるる有
以遠國ニの有餘を見行ハ一て八十綱打掛させ御在
一坐て引寄せ給へる傳あり皇大神の如此譬へて詔
給へるを以ても豈右の出雲一國の事あるのやハ此
大八洲國ハ更あり外國の全ニ雖も素戔嗚大神の物
爲させ御在一坐て國を建給へる者も一有けれハど
も余國ハ己ニ其傳をこへるハ僅ハ出雲國ハ其古

語の遺れるあぐり國引坐の言ふて大地の惣てを云
事灼然くあむ有ける其ハ己百八十ハ丁ハハも引る欽明天
皇十六年御紀百濟國王ハ仰下され一語ハ昔在天皇
大泊瀬之世汝國爲高麗所逼危甚累卵於是天皇命神
祇伯受策於神祇祝者迺託神語報曰屈請建邦之神往
救將亡之主必當國家謚靖ハ人物又安由是請神往救
所以社稷安寧原夫建邦神者天地割判之代草木言語
之時自天降来造立國家之神也と有る建邦神と申す
ハ我素戔嗚大神の古説ふる事己ニ故大人等の説の
如シ此事ハ合せて師の赤縣太古傳三皇紀ハ引れた

△猶傳ハ四三
ハ云ウ考合す
可キ者あり

彼土の古傳ハ人皇氏九頭九男相像其身九章故曰
 九皇乘雲祇車駕六提羽而出谷口分九河依山川土地
 之勢裁度爲九州謂之九國因是區別各居其一故曰居
 方氏人皇乃居中州以制八輔此各州之始也云事の
 有る依山川土地之勢裁度爲九州云文ハ右の風土
 記の国引の文ハ亦思合す可き古説ある者ぞ
然レ
此ハ東水臣津野命と申奉るを韓地ハ建邦神
と云ハ赤縣ハ東人皇氏と傳へたる有る但通證
或曰此謂禮君也東國通鑿曰当初無君長有神人降禮
木下國立爲君是爲禮君國号朝鮮唐堯時也云禮
云然レ也右の禮君云天上より降來れる神
人ハ有けり右の禮君云天上より降來れる神
かこそ有けれ此大神の國と建給へる推尊されたる神
ま久世の事ハ此非す遙ハ古の事ハ推尊されたる神

△又右の人皇氏
 の古説ハ傳廿九
 卷百九十二下
 注ナ可シ

其二ハ古事記ハ又娶大山津見神
 之女名神大市比賣生子大年神次宇迦之御魂神二字
以音 有る是なり石ハ云る國引坐の御功ハ此素戔
 鳴大神の御世の涯際の御大業ハ御在坐て其根國
 底國ハ就り御在坐す迄の御事業の最大有る者是
 あり儲右の又字ハ上ハ故其稱名田比賣以久美度迹
 起而所生神名謂ハ島士奴美神と有ハ對へたる者ハ
其 其ハ島士奴美神と申すハ上二百七 下十一 下丁 小粗之る如
大 大己貴神の御事ハ渡らせ給へるなり然レて其神
 ハ一と國土經營の御事業を受奉らせ給ふ可き神と

定め置奉るせ給ひ次子ハ此宇迦之御魂神大年神を
令生給へるハ其國土ハ農作ヲ御魂神と令在奉るせ
給ハむとて更ハ又御妻問ハ御事御在ハ坐けるあり
若て此御妻問ハ出雲國ハての御事ハ御在ハ坐ト
其國を放リ御在ハ坐て何れハ別處ハ物爲サテ給
へり御時ノ事ト所見テ其風土記ハども所見無
きと以て今此を考ふるハ己ハ傳十一
五丁ハ粗註せる
如ク備後風土記ハ疫隅國社昔北海坐志武塔天神
南海神之女子子與波比ハ出坐ハ云ハ即詔ハ吾者速
須佐能袁神也云ハと所見たり北海ハ出雲國を云ハ

聞え武塔天神の塔字ハ齋宮齋式ハ塔称阿良ハ岐ト
有ハ依リ武塔ハ多祁阿良ハ岐ト訓テ即此大神の神
性の雄健ハ荒ハ御在ハ坐す意を以号け奉れる者ハ
可ハ其南海神之女子ハ口訣ハ南海龍女ト有ハ就
て考ふるハ其ハ引る私記ハ聞靈是山神也ト云
ハ小倉神社鎮座傳記ハ高靈神亦名聞靈神云ハ即是
與大山祇神合カ而坐神也ト有ハ實ハ大山祇神ト
高靈神トハ御夫婦ハ御間ハ御在ハ坐あり此を以推
ハ神名式ハ伊豫國越智郡大山積神社名神御在ハ坐
可此御許ハ通ハ御在ハ坐けるありけり然るハ和

名抄郡名右の越智と字知と注せるハ小市と云事
 小て其大市比賣命の大市小對へる如き地名あるも
 亦然思合す可き便宜とぞ所思えたる借市といふ種
 奉れるハ傳十五三百六十四丁二十八丁云るが如く宗像
 神といふ市姫命と稱奉り又天高市ありと云ふ市小同
 しくして物の輻湊ヲ集會ス地と云号されハ又然る
 御事共ハ係て御功坐す女神小ありむ御在し坐るふる
 可き記傳九一五丁小大市ハ和名抄郷名小大和国城上
 郡大市以於保此ハ書紀崇神天皇御卷垂仁天皇御卷小
 也所見たる地あり參河國碧海郡大市播磨國揖保郡

大市於布備中國窪屋郡大市於布神名帳小伊勢國安
 濃郡大市神社ふり有り此地の中小由有る有む也
 と云れき又和名抄郡名小右見国邑知於保と有む大
 市ある小や神名式小那賀郡大藏神社大飯彦神社御
 在し坐る由有げふる事共ふるむ右の北海南海と云
 給へる備後國あり定云ふ方あり纂其疫疏引れたる
 風土記ハ武塔神乃進雄神之別号其祠今見在備後州
 日疫神社と所見たる即神名式出雲國深津郡須佐能
 衰能神社と有る是あり然し伊豫國海と隔て
 其北方在れハ南海と云む伊豫國海と渡りて其
 南邊在れハ南海と云む伊豫國海と渡りて其
 土記の事を彼神逐ハれり偕此大神の神大市比賣命
 御時と云説共ハ皆誤あり御合坐し奇御戸ハしモ何処ありけむ更ニ所見無

きを今思ふに山城国ふとあり非なりなりも所思ゆる子
 細ふか有ける然して古事記に其御子大年神宇迦之御魂
 神大年神柱ニ有る事なれども已に傳十三九下に註る
 か如く上代本記に土御祖神社の祭神を書せるに宇
 賀魂大年神一座ニ有て實ハ一神に御在し坐けるを
 其農穀種と司り給ふ方と以て宇迦之御魂神と申し
 農作の方と司り給ふ方と以て大年神と稱別たるに
 こそい有けりハ其實ハ一神に御在し坐か故に右の如
 く両名と復重て申し習へるありけり若て神名式に
 山城国に訓郡自玉手祭来酒解神社名神大年次新
嘗元名山塔社

有ハ其神大市比賣命の御父大山祇神に渡らせ給ひ同
 郡小倉神社大月次ハ閻魔神に御在し坐て其女神の
 御爲ハ御祖命に渡らせ給ひ同郡大歳神社大月次
 ハ其大神に婚奉らせ給ひて生奉らせ給へる御子に
 坐り然して古事記に故其大年神娶神活須毘神之女
 伊努比賣生子云々次向日神次聖神五神又娶香用比賣
 生子大香山戸臣神次御年神柱ニ所見たるハ神名式
ハ向日神社坐るを其社記に神須佐男命子大歳神娶
 活須日神之女神須治耀姬命生子也略下傳へたるに
 對攷ふるに古事記に伊努比賣命と香用比賣命とを

別神と爲るハ誤ルテ其同神の渡ルセ給ル由已ハ傳
十^百十五^二百九^九ハ註ル如ク又社説ハ向日神と
申サハ御年神の御事ハ渡ルセ給ル由云ハ然ル
言ハテ御年神と申サハ御父大年神ハ對ヒタル御名
あり又向日ハ向^{ムカヒ}飯^{イヒ}ハ祝詞ハ朝御食^{アサミケ}ハ御食能^{ミケノ}加年
加比^{カヒ}ハ長御食能^{ナガミケノ}遠御食^{トホミケノ}登赤丹穗^{ノボアカニホ}聞食^{ミケ}と有ル是子
リ聖ハ借字ハ飯^{イヒ}知^チハ申サ義^{イミ}ありハ此同郡ハ大歳
神社向神社相並バせる支右ハ引ル神各式ハ石見国
那賀郡大歳神社大飯彦神社御在^{ミマ}坐^イル所以ハ相
叶^{アハ}ヘリ此等の所因^{ヨリ}を合せ見^ミル時ハ此大神の奇御戸

を起サセ給ヘルハ實ハ山城國ハテの御事^{ミコトノ}トあり所
思^{オモ}ハク^クリける然^シハ同式^{ドウシキ}子^コ稻荷神社三座^{イナリノカミヤノミヤ}並^{ナリ}各^ノ神^{カミ}大^{オホ}
坐^イル此ハ神代^{カミヨ}を去^サテ遙^{トホ}ハ後世^{ノチノヨ}ハ出来^クル御社^{ミヤ}ハ
御在^{ミマ}ハ坐^イセ^シズモ其社記^{ミヤノキ}ハ中倉稻魂命也^{ナカクラノカミ}即^ス素戔嗚尊^{スサノヲノカミ}
大市^{オホニチ}姫伊弉諾^{ヒメニギハヤヒ}上進雄尊^{ノボリヲノカミ}下大市^{シモニチ}姫^{ヒメ}以上三座^{ノボリノカミ}神^{カミ}是^シ尤^{モト}秘^ヒ
ニ中深秘也^{ナカフカヒ}と有^リハ謂^{イハ}ル古事記^{コトワザノキ}ハ説^{イハ}ハ依^ヨル^ルナレ
ども然^シル可^シキ所以^{ソノヨリ}有^リテこそハ齋^{イハヒ}ル^ルサセ御在^{ミマ}ハ坐^イ
けめ若^ニテ神祇拾遺^{カミヤタリノヒラキ}ハ弘長六年^{ノボナシノシ}加田中^{カダナカ}四大神^{オホヨロシノカミ}爲^シ五座^{ノボリノカミ}
也田中社^{タナカノカミ}者^シ大田^{オホタ}分身^{ミタマシラセ}三峯^{ミツタカ}地主^{チノカミ}宇^ミ一^{ヒト}説^{イハ}ハ大^{オホ}
四柱^{ヨシツタ}兒^コ神^{カミ}也^シ五十猛^{イソノヲ}大屋^{オホヤ}姫^{ヒメ}杵^シ津^ツ姫^{ヒメ}事^{コト}八十^{ヤソ}神^{カミ}也^シと云^フル

る神活須昆神ハ傳十五卷二百八十七下ハ註る如
く熊野櫛障日神ハ渡り給へるハ註る如
ハ神名式ハ大和國高上郡葛木坐御藏神社名神
大月次新嘗と有る是をむ神代の事迹と思ひハ註
有る其ハ己も祝詞講義其ハ三ハ上二百九十五下ハ註
ハ云ハ合セ考ル可シ
御在坐ける頃ハハ註至りてハハ註佗ハ物爲させ給ハ
ければ右の神大市比賣命ハ娶せ給へるハ註ハ其間
ハ在御事あり然其許を離れさせ御在坐ける其大
己貴神の生立を試させ御在坐ける証ハ古事記
ハ故此大國主神之兄弟八十神坐然皆國者避於大國
主神所以避者其八十神各有欲婚稻羽之八上比賣之

心共行稻羽時於大穴牟遲神負帛爲從者變往於是到
氣多之前時裸菟伏也尔八十神謂其菟云汝將爲者云
二故其菟白大穴牟遲神此八十神者必不得八上比賣
雖負帛汝命獲之於是八上比賣答八十神言吾者不聞
汝等之言將嫁大穴牟遲神故尔八十神怒欲殺大穴牟
遲神共議而至伯伎國之牟間山本云赤猪在此山故和
礼共追下者汝待取若不待取者必將殺汝云而以火燒
似猪大石而轉落尔追下取時即於其石所燒著而死尔
其御祖命哭患而參上于天請神產巢日之命時遣蜺貝
比賣與給貝比賣令作活云二於是八十神見且欺率入

山而切伏大樹茹矢打立其木令入其中即打離其冰日
矢而榜榜殺也尔其御祖命哭乍求者得見即折其木而
取出活告其子言汝有此間者遂為八十神所滅乃速遣
於木國之大屋毘古神之御所尔八十神竟追臻而矢刺
之時自木侯漏逃而去其所見えたるが如く大己貴神
の己小八十神の為に殺され給りむと為し更凡て三
度ある中其身亡給へる事二度のみ及ばせ給ふ程
の御事あるを以て其御災厄の較略を想像り奉る
可きあり儲其御祖命と申すは奇稻田姬命の御在し
坐て即其須賀宮小大己貴神と共小御母子二柱御在

坐ける間の御辛苦あるの御父素戔嗚大神も同ト
此大八洲國の内小御在し坐たりけむを其御祖命の
天上のまで参上らせ御在し坐す程の騒ぎあるは況
て此顯國小御在し坐ふぐるは其を所知者ざる事や
や御在し坐べき然るを外事の如く思わす成して助
奉給ふ御氣色も御在し坐さるあむ此の幽深き致
有る御事ある可うし古事記に此大國主神を六
引合ふ事として出雲風土記に大原郡海潮郷家
正東一十六里廿三歩古考傳云字能治穴古命御祖
須賀命而北方出雲海潮郷上漂御祖之神此海潮郷
故云得監と有る是の事あり此海潮郷上漂御祖之
十七下謂ゆる須賀宮地あり此海潮郷上漂御祖之
の其御祖之神を恨みて漂ふは奉る事能治穴古命

日本書紀傳二十三

三百六

△海之道彦命
△海潮を自由と
しつる神と此

△但右の宇能治比
命、同記に楠維那
田郡家正西八里
歩宇乃治比古命
多水而其乾飯
多食坐語而多
有給之然則可謂
亦多鄉與今
人猶云勢多耳
有て同神と通れ
ハ悪神と聞え
れど、始ハ悪
けむ、後ハ大
神ハ順ハ給
善神と成り
給へるあるや

事ハ御在坐
申すも右ハ
命と申すハ
己貴神ハ素
須賀宮ハ留
其須賀宮ハ
之根堅洲国
命之御所者
白其父言甚
色許男即喚
以蛇比礼授
教者蛇自静
其父言甚麗
色許男即喚
以蛇比礼授
教者蛇自静

授吳公蜂之
中令採其矢
妻須世理毘
出立其野尔
室而令取其
牟久木實與
其大神以為
神之髮其室
須世理毘賣
琴而逃之
授吳公蜂之
中令採其矢
妻須世理毘
出立其野尔
室而令取其
牟久木實與
其大神以為
神之髮其室
須世理毘賣
琴而逃之

驚而引引其室然解結結髮之間遠遠逃故尔追追至苗泉比
良坂良坂遙望呼謂大田大田牟遲神曰其汝所持之生大刀生
弓矢以而汝庶兄弟者追伏坂之御尾亦追追撻河之瀨而
意礼為大國主神亦為宇都志國玉神而其我之女須世
理昆賣為嫡妻而於宇迦能山之山本於底津石根宮柱
布力斯理於高天原冰椽多迦斯理而居是奴也故持其
大刀弓追追避其八十神之時每坂御尾追伏每河瀨追撻
而始作國也也所見たるハ全全其大已貴神神之生長生長
せさせ御在在坐て大國主神神と成成りせ給ふ可可き番番
當當りせ給ふや否やと試奉試奉りせ給へる所あり備此備此

御祖命御祖命と有ハ例例の奇稻田姬命奇稻田姬命の御在御在坐る由上ハ
註註る如し然るハ素戔嗚大神素戔嗚大神の御在御在坐る所と根
堅洲國堅洲國と云ハ大已貴神大已貴神の還坐還坐道道を黃泉比良坂黃泉比良坂と
云ハ己己の傳傳十五三百二十十六四十の註註る如く其ハ
甚甚く異異ふる傳傳ありけり其上其上ハ亦御祖命御祖命云ハ乃遣連
於本國之大屋昆古神之御所御所と有て此此ハ其出立出立遣
給ふ所所の御祖命告子云可參向須佐能男命須佐能男命所坐之根
堅洲國必其大神議也大神議也と所見たる如くハ其始始
本國本國遣遣給へる事事の二途二途成て打合打合ざるを如
何何と為む此ハ素戔嗚大神素戔嗚大神の御子五十猛神五十猛神又須勢

理昆賣命等の神等を率て紀伊國に御在り坐ける御
 時の事あるを先御兄五十猛素戔嗚大神の御所を遣はされて其
 神の御計を以て素戔嗚大神の御前を参到すに
 給はむとの御事ありけむを已く其大神は根國にお到
 るせ給へる後と古人の心得誤れると根堅洲國又
 ハ黄泉比良坂と云語の係りて傳はれる者と所見た
 るハヤ然して其御座所ハ何處あるぞと云ふ傳三十
 大神の御在り坐る地ハ神名式ハ紀伊國在田郡須佐
 草郡須佐神戶と有る是あり其大屋昆古神と申すハ
 五丁猛神の御事ハ御在り坐る是あり其大屋昆古神と申すハ
 社名神大月次相嘗新嘗又有る是あり其大屋昆古神と申すハ
 十三丁此大神ハ初欲罷國根之堅洲國と白給

△此事傳二十卷
 百十七丁小辨
 可

此終ハ所逐て罷給ひぬれハ今ハ既く彼國にお坐る
 ありと云れたりと右ハ須勢理昆賣命と申すハ謂
 用有て根國にお到坐ると爲む故此ハ八十神の爲
 殺され給ふ事二度御在り坐けるハ御父素戔嗚大神
 ハ却りて救はせ給はず御祖命遠く上天を参上らせ
 御在り坐て神産巢日之命を請させ給ひけるハ此ハ
 因勅之曰吾兒官首者即脚摩乳手摩乳也故賜号於二
 神曰稻田宮主神又有る其御時あり御契約の御事御
 在り坐て其御子の生長らせ給ふ迄ハ如何ありける
 御事の御在り坐せしむハ露も顧みさせ給ふま
 かりける御契約こそハ御在り坐たりけるハ何を以

知ると云ふ右の出せる御祖命告子云可參尚須佐能
男命所坐之云々國必其大神議也故隨詔命而參到須
佐之男命之御所と有る此子必其大神議也と指究め
て詔給へる是あり其ハ其御子の受給ふ可き災厄の
御事も重疊カタテあり又救給ふ方ミチも隨分盡マツさせ給へり然
れども此所カ令在奉りてハ給終ハ其八十神の為ハ
滅ホがされ給ハむ御父大神の御所ハ參赴マツりしめ給へ
るむハ活すも死すも其御心の隨マツハ治給ハむと思
ふして赴マツむけさせ給へるゐる今ハ必の義あり其
必字カハ甚く力入てぞ見ゆめるう斯るハ其大國主

神をしも此ハ又素戔嗚大神の甚く辛苦め給ふ事惣
て四度ハ及ばせ給へりき中ハ其大野の中ハ令給
へり御時カハ御身自射殺させ御在マツ坐むとし
て鳴鏑を射入させ給へる即左カも右カも其凌マツき堪
させ給ふや如何と試マツさせ御在マツ坐ける御事申す
も更あり若て終マツハ其八田カ聞大室カ令入給マツハ其御頭
の虱を令取給ふとして吳公を令遣給へりカハ決
めて難き事を命せ給へるふて何處迄も辛苦め懲マツ
給ハむとの御カ事あり下カ於御カ心思愛而寢マツと有ハ
て大神の難カ面カ御在マツ坐ける間カの御本性カハ見ハ

れさせ御在り坐けるふて是迄の御心を想像奉るふ
も哀れとも悲哀かりける御事共ふる記傳十一五丁子
此ハ大穴牟遲神の多在る呉公を少りも懼れずて昨
破給ふと思ふて其勇を感給ふふり然れど其ハ
御心の裏ハ籠めて色ふも出給ハぬと云事を惜ハ
知さむ為ハ於心々ハ云あり備上件蛇室呉公蜂室ふ
どふ令寝給ハハハ事故無く平くて出坐し時又野
を焼廻りたるハ無恙くて矢を持って獻給ハハ時
其度毎ハ御心の裏ハ思愛ハシタオホキハかぐ其御心を表ハ
顯ハハ給ハぬ故ハ彼處ニハハ此語を略きて今終ハ

一事ハ如此云る古文の妙ある處あり心を著て味ハ
ふ可しと云れたる實ハ然る言ふて大神の今まで恐
ハ御在り坐けるも此ハ得堪給ハハハハ穂ハ発ハ
れさせ給へる御事あり此御趣を以て見奉るハ
直ハ須賀宮を遠く放りせ御在り坐て其御子の生立
を試みさせ御在り坐けるあり但古事記ハ其大
己貴命ハハハ六世孫ハ當りせ給へれども今ハ御紀
の御見と有る方を立て説を成せるあれハ其心ハ
見ハ故其大神の教給へる任ハ大己貴神の八十神を
言向させ御在り坐て大宮柱太高敷て天下經營給ハ
ハ宮都ハハハ右ハ謂ゆる宇迦能之山本ありけるが
其ハ上二百三ハ引る出雲風土記ハ出雲郡宇賀郷郡

今美佐伎社有
乙次子

家正北一十七里二十五步所造天下大神命讓坐神魂
命御子綾門日女命亦時女神不肯逃隱之時大神伺求
給所是則此鄉故云宇賀之所見たれ此ハ後の名を
始小巡くし傳たけける者あり若て其宮處ハ
同記ハ出雲御埼山郡家正北二十七里三百六十步
高三百六十文周九十六里一百六十五步西下所造天
下大神之社坐也有て今云小鯨淵山ハ云小續ま
て其西下云ハ謂ゆる日御前の事聞えたり同記
並不在神祇宮有る六十四所の中御前社同御前
社並坐るを右の文據て思小其御前社と申せ

る亦む右の出雲御埼山西下所造天下大神之社坐也
と有る是なる式外今御前社同御前社申せ即其嫡后
須勢理毘賣命御社なる可又此を日御前云小
日ハ如何意ぞと云小日神の所生坐三女神の
御事ハ渡給小故事申すと更其あり又同御前
社申せるハ傳十五二百四云如く今日御前
社申して上下二社立せ給へり其社説上社ハ東
水神相殿神三座田心姫命湍津姫命市寸島姫命有
る是あり然れハ其下社申を亦む右の美佐伎社亦
て所祭大己貴神渡給可乎然るを其下社
を大日靈尊相

殿五座正哉吾勝尊以下五男神と云ハ日御埒と云ヨ
リ日神を祀奉れる御事と後人の推量リ云る者を見
ルみ故其如く素戔鳴大神ハ其國作の大業を
も御兒大己貴神オホニギハヤヒ事依ツカサ授けさせ御在ミマシ坐カて今亦
も始ハジメより思オモふ立タせる任マカり御母國ハ根國底國ハ後
も安ヤスく出立イデし御在ミマシ坐カべく成ナりたる此ハ已而素
戔鳴尊遂就於根國矣と有る是亦第五ノ書ハ然
後素戔鳴尊居熊成峯而遂入於根國矣と所見たり口
訣ハ熊成峯在出雲國と云るハ然る言ハ己ミ入坐
玉タマと為させ御在ミマシ坐カ就カてハ其元の出雲國イセノクニ還著
せ給ひて其國ありあむ物為させ御在ミマシ坐カたりける

一 偕其熊成峯ハ風土記ハ意宇郡熊野山郡家正南一
十八里と有て細書ハ有繪描也所謂熊野大神之社坐
と見えたる即謂ハる熊野大社はあり神名式ハ熊
野坐神社各神と有り若て此ハ傳十五三十一ノ註ルガ
如く伊弉諾大神の登天報命の御時ミトキハ当りて幽宮を
淡路之洲ハ構ツクリ給タひ大己貴神オホニギハヤヒの八十隈ヤソノハ隱給カふ
為てハ天日隅宮アメノヒノサマノミヤハ御靈を留とどめさせ御在ミマシ坐カける
皆一列の御事あるもて此ハ素戔鳴大神の彼根國
底國ソコノクニハ就り御在ミマシ坐カてハ此神宮を物為させ御
在ミマシ坐カて永く此ハ御靈を留めて鎮り定り給へるハ

御靈之紀伊國の
熊野ノ宮ハ

△神名式子謂ゆる
 須佐神社夏より
 今年安政五年九
 月小詣奉り社説
 鳴尊稲田姓命ニ
 柱ノ渡り也給ヒ
 別宮ハ天照太神
 根社ハ五男三菴
 祀リて是神
 此ノ神也ノ廣
 此ノ素戔嗚
 神

亦む御在り坐ける記傳九十四ノ須賀宮と熊野宮と
 を一ノ見りれたるハ上十二百二ノ己も辨へたるガ如
 く思違への説ハ有れども熊野ハ隱野ノ義ハ見
 れたる亦む實然る言あるハて熊成と云も元より
 隱成コレトスノ義ハ彼國ハ赴き御在り坐ける所以ハ由る
 事論を待す猶下ハ云を待べし此頃ノ御事ノ聞えて
 風土記ハ飯石郡須佐郷郡家正西一十九里神須佐能
 衰命詔此國者雖小國ニ處在故我御名者非著木石詔
 而即已命之御魂鎮置給之處然即大須佐田小須佐田
 定給故云須佐即有正倉と所見たり根國底國ハハ

△朝野郡載六卷
 應徳二年勅文
 十去長元二年七月
 出雲國言上玉管
 飯石郡須佐郷
 秋田村今月八日赤
 雪降殖田面梅
 并野山草木榎
 七畢ノ云事有
 リ須佐郷ノ名
 傳ハて七ざる

立し御在り坐す御時あり非ずし何ぞ如此共
 地ハ号けて殊更ハ御靈を留め置せる御事ノ御在り
 坐む能く夏ノ情を思ふ可き者あり其例猶有
 小意宇郡母理郷云々所造天下大神大穴持命越八國
 平賜而還坐時未坐長江山而詔我造坐而令國者皇御
 孫命平世所知依奉但八雲立出雲國者我靜坐國青垣
 山廻賜而玉拾置賜而守詔故云母文理神龜三年字改
 母理と有も國避ハ御時あるガ故ハ此ハ御靈を留め
 させ給へるあれハ右ノ例と異るハ御靈を留め
 若て此素戔嗚大神ハ其志ハ給へる根國底國ハ
 到りせ御在り坐て其國ハ和御魂を留めさせ給ひ
 其正身ハ終ハ久方ノ天照了月國ハ渡りせ御在り坐
 て月夜見大神ノも成りせ給へりけり然るハ此

天照太神の御父
神小從奉り給
ひつゝも天日
之女宮の慶を異
かして住せ給へる
如く

留滞しせ御在り坐て終り地下根底に在る謂ゆる黄
泉國の参起りせ給ひ四神出生章第六一書小吾欲從
母於根國に有る御言の如く大御祖伊弉册大神小從
奉りせ給へるあり然るハ天照太神の高天原の上
大神小從奉りせ御在り坐つゝも大御父伊弉諾
の旨ある由己小先達の説の如く故此大神其御母神
の從奉りせ給ふとして根國に就坐しつれども然る
可き幽契もや御在り坐たしけむ傳八六十四百七
四百八十一丁十四丁十一小己小註せるが如く正しく月
夜見尊と同神の御在り坐す二ハ其根國底國の素
戔鳴尊と申奉る方の御靈を留めさせ給ひ其正身ハ

一も天照す月國のこゝに幸行せりけめ大祓詞の根
國底之國に坐速佐須良比咩登云神持佐須良比失
之見元傳八九十三百七丁引る御鎮座傳記尾崎神
社記等の其神を土藏靈と申して素戔鳴大神の和
魂神小渡りせ給へば其黄泉國の此神を留めさせ
給へる事灼然くおむ有ける然れば御空行り月の此
大地の附屬で隨ひ巡るも専此大地の中心に有る根
國底國より牽給ふが故ある事云も更あり然れども
其月神と成て彼國に渡りせ給へるハ彼其根國底國
の御在り坐て後の幽事あるが故に此ハ現小顯國よ

其地胎の入りせ給へる事小結めて遂就於根國矣と
書されて其係りハ瑞珠盟約章小於是素戔嗚尊請曰
吾今奉教將就根國略下有小起りて寶鏡開始章第三
一書小既而諸神噴素戔嗚尊曰汝所行甚無頼故不可
往於天上亦不可居於葦原中國宜急適於底根之國乃
共逐降略中於是素戔嗚尊曰日神曰吾所以更昇昇未者
衆神處我以根國今當就本若不與汝相見終不能忍雖
故實以清心復上未耳今則奉觀已詢當隨衆神之意自
此永歸根國矣略下有を兼て素戔嗚大神の現顯國小
御在十坐ける間の御事業の終を言し明させ給へる

者小ぶむ所見たる黄泉の事小一即地下根底小在
幽域有事傳ハ卷八十九下九卷九下十卷五百六
下委御名を月夜見尊申奉夜見同言不
日神直御名を月夜見尊申奉夜見同言不
を以て直御名を月夜見尊申奉夜見同言不
説出雲御名を月夜見尊申奉夜見同言不
國ハ出雲御名を月夜見尊申奉夜見同言不
出た者御名を月夜見尊申奉夜見同言不
みも足御名を月夜見尊申奉夜見同言不
社名神風土記ハ熊野大社見えたる是即等五一書
小素戔嗚尊居熊成峯有地不風土記ハ熊野山
郡家正南一十八里有細書有檜檜也所謂熊野
大神之社坐也見えたる是不此素戔嗚大神彼根
國底國就坐む一此顯國御聖を留め置せ給

△風土記の島根郡
朝野御家正南
一十里八十四歩
野大神命話朝御
箭助養々御箭
助養立賢組之
處定給故云朝
酌と有ふと此
御時のまゝに定
給へりけり

ハむ幽宮を此の構へ給へる（あり）熊野の名義を記
傳九四下ハ隱野（ユキノ）と説けたる其如くして地理の青垣
山隠れる謂のこゝハ非ず此宮ハ寂然ハ隱坐て遂ハ
根國ハ就坐りけり由ハ縁れる地名あり宮号あり幸
己ハ傳五二三下ハ彼伊弉諾大神の日之少宮ハ復命し
給ハむとて幽宮を淡路之洲ハ構給ハ伊弉冉大神
の黄泉國ハ入給へる地の熊野ハも神各式ハ紀伊國
牟婁郡熊野坐神社大神御在ハ坐と此大神の熊野大
社の御事ハ共ハ同ト所以ハあり更あり大己貴神の
八十隈ハ隱坐す時ハ当りて天日隅宮ハ鎮給へるハ

△因云右の樽楳と
本ハ樽楳と有る
とあれども次ハ
諸ハ野所草木と
攀たるハ樽楳の
木ハ有れども樽
木と載す誤ある
事著けとハ今
改て引り其抄
下ハ字或作樽
有と証とあり

ハ皆一事ある者あり其事ハ上二百七十七ハ委
ハ并たるガ如記傳須賀宮條ハ彼國ハ熊野ハ相並
へる所あれハ熊野神宮即此須賀宮ハ熊野ハ相並
云れたれども須賀宮ハ大神の奇稲田姫命ハ合
給ハむ料ハ造り給へるハ後ハ大己貴命ハ住
給へる事ハ上ハ條ハハ云るガ如くハ本より此熊
野神宮ハ異なり神祇令天神地祇義解ハ謂天神者
思ハ混ハ可ハ異ハり神祇令天神地祇義解ハ謂天神者
伊勢山城鴨住吉出雲國造齋神等類是也地祇者大神
大倭葛木鴨出雲大汝神等類是也ハ有る此出雲大汝
神ハ有ハ謂ハる杵築大社の御事ハ渡り給ハ出雲
國造齋神と書されたるハ此熊野神宮の御事ハ
御在ハ坐ける偕此大神を天神ハ申奉るハ故有る事

あり其事上十百下ハ己ハ委シ注セるガ如ク一レ偕シ此
大神を斎奉る宮處の最尊キハ彼天重と御在リ坐ス
草薙劔の御由縁ハ就テ熱田神宮ハ御在リ坐スをむ
天津日繼の御上ハ於テ皇太神宮ハ相並ビて甚止事
無キ御事ハ渡ルせ給ヘれば今更ハ申サむ中ニ亦
了ルを此熊野神宮ハ一トも素戔嗚大神の御自宮處を定
めさせ給ヒて神留坐ス幽宮ハ一レ有ケれば天下ハ在
内ニ此大神の宮社の中ニ於テハ二無ク尊キ神宮ハ渡
り世給ヘるを上ニ百七十六トハハ論ヘる事ハあるが上古ハ
り以來景行天皇の御世頃ニハ天照太神ハ共ニ天皇

ひて甚ク崇奉ルせ給ヒ記傳九四十ハ此熊野神宮ハ須
佐之男命ハ坐ス事ハ國造神賀詞ハ出雲國ハ青垣山
内ハ下津石根ハ宮柱太敷立ハ高天原ハ千木高知坐
須伊射那伎ハ乃日眞名子加夫呂伎熊野大神櫛御氣野
命ハ見え風工記ハ伊弉奈枳乃眞麻奈子坐熊野加
武呂乃命ハ有リ大穴持命の御祖ハ故ハ出雲國ハ
てハ殊ハ如此申セるあり櫛御氣野命ハ申ス御名ハ
須佐之男命ハ此熊野宮ハ鎮坐ス御靈ハを稱シ申セる
可シ伊射那伎ハ乃日眞名子ハ云フ文徳天皇實錄三
代實錄等ハ熊野ハ先ハ杵築ハ後ハ舉ゲ勲位ハ杵

△伊射那伎命の
御子ハ多在リ中
子と殊ハ御愛子
ハ坐ス一レ次ハ加夫
呂伎ハ

あり但共御神
 野命と申奉る
 其社お鎮坐す
 御霊をのち奉
 れる御名お非ず
 下小住すか如く
 天下衣食住の物
 成へる土を之申
 給ひて願見蒼皇
 と恵み所知者
 我より御天降り
 後主張て神奉
 れる大御名お
 有けれは縁の所
 以て非ず
 下とある柳御氣
 野命の字を合せ
 て丁四子

築ハ一等降れり此等と合せ見ても須佐之男命の坐
 事疑ひ無き者あり採と云れたる小て其祭神の御
 事實の明亮なる者あり右の伊射那伎乃日眞名子の
 九字の叙紀の引のり
 備此神賀詞の事ハ己小祝詞講義を著述して委しく
 説たる事ハ有れども今此のても其義を明らう
 為されば盡さざるを以備右の出雲國乃青垣山内
 て次ハ其要を云べし
 云ハ其域内にて國秀ある美地を云稱あり神武天皇
 御紀ハ東有美地青山四周と見えたるも青垣山内
 有る地を美地と詔給へるあり其三十二年御紀ハ復大
 己貴大神目之曰玉牆内國と有る其青山四周れる美
 地を玉牆の周れる小形容して詔目け給へる小て青

の大御祖神として等同の斎奉らせ給へり御狀を
 りけるを其より以後ハ何時と無く此大神の御事ハ
 疎しくあむ成れりける然るハ草薙飯を伊勢あり
 放ち奉らせ給へる項間より自然自然ありけむも灼
 く先其塾田神宮ハ最初の宮号をも奉らせ給ふ可
 く垂てハ此熊野神宮ハ其御事あとの御在り坐て
 心往り許し仰ぎ恐る奉らせ給ふ可き御政の御在り
 坐するあむ天下ハ一の廟典ハ有ける所以ハ神階
 るども自餘の諸神ハ後れさせ御在り坐て僅ハ名
 神大社の御會釋を奉らせ給へるのみあるぞ遺憾き

平世所知依奉但八雲立出雲國者我靜坐國青垣山廻
 賜而玉珍置賜而守詔故云文理神龜三年と有也其地
 の青山四周れる奥區あるを美させ御在坐此小
 御靈を留置せる謂あり又大原郡末次郷條所造天
 下大神命詔八十神者不置青垣山裏詔而造廢略と有
 も八十神を中原マハラの地小置給ハハて造廢り給事
 を不置青垣山裏とハ詔給へるあり此等と合せ思ハ
 其熊野此の隱野ある事も自然不知れ又其神も然
 る國の奥區ある地小御靈を留めて根國底國小隱れ
 させ給へる御事も灼然くある有べかりける此青垣
山内の

△此大神の御事
 不置垣山を云深
 き所以有也事
 十九丁み注す可

注ハ此小然も用無き事あれども熊野ハ本より大
神の根國ハ就坐る幽宮の謂ある物なり又其青垣山
隱れる由地理ハ依れる由を兼日眞名子ハ御直字
 云事ハて嫡妻腹の子を云ハ其由傳九五丁云り此
 を以ても素戔嗚大神ハも伊弉諾伊弉冉二柱神の
 遣合ハ給ひて相成ハ坐る御事ハ御在坐す御事を
 徴ハ奉る小足れり加夫呂伎ハ後教ハ神祖ありと云
 れたるが如く大己貴神の御父大神ハ御在坐を以
 て其御裔神等より然称奉るれハありけり風土記意
 宇郡出雲神戶條ハ伊弉奈根乃麻奈子坐熊野加夫呂
 乃命五百津鉏神鉏所取ニ而與所造天下大神穴持命

△も又加夫里支
熊野大御神と

二所大神略と有也其御子大己貴神小對へて御父大
神を加武呂乃命と稱奉れりあり長寛勘文小引る初
天地本紀の小熊野大御神加夫里支名久志弥居怒命
と有り但同書小須佐之乎命と申す御名を別の擧て
異ある神の如く記せるハ甚愛たほ有まじま
事あり其加夫呂伎と云義ハ熊野大神ハ右小引る如
己小傳四卷ハ注せるが如し
く凡土記及文徳天皇實録ハ見元長寛勘文ハ殊
小大御神之ハ書せるハ當ハ然有べき御事あり備
神名式を閱み此熊野坐神社名神小亞乙前神社御在
し坐す其前字を佐伎と訓来れるハ伎佐伎の略也
即奇稲田姬命小渡りせ給ふらむが大神の即方ハ名

神大社也て御在し坐す故ハ別小書されたるハ有
れども出雲郡能杵築大社名神同社大神后神社と並
坐る同例あり可うむ備此大神の后神と申せば其
奇稲田姬命小御在し坐す御事申すも更あるを猶傳
二十二百下小云るが如く此大神の天より率て降
坐る本后神御在し坐す事長寛勘文ハ熊野大御神加
夫里支名久志弥居怒命略中降来伊豆毛國到熊野村宮
柱太知奉而略中又御見后大夜女命山狭村宮柱太知奉
而辭坐略下と見えたる是あり神名式小意宇郡山狭神
社同社坐久志美氣濃神社見えたる其即大夜女命小

又此山狹神社
坐をとも素戔嗚尊
其久志美氣濃神
又申奉り天正
り天降りて結へる
後小事此即
名を以て稱奉れり
御事とも知へき
者あり

公事申すも更
ふか此殊小正
無き所以有る
あり

して此小久志美氣濃命を本宮より招請て被祭る
故小后神を主と祀れる者ありけり傳十三卷四
賀詞後叙小熊野社の今説小上宮三社中伊邪
那岐命伊邪那美命左早玉男右事解男あり帳小社天
照小神須佐之男命ありと云ふれども神名帳唯熊
野坐神社のみにありて幾座と云事無れ官帳入て
式小我れり主として祭る須佐之男命一座の速
て其餘の皆添て祭る神ありと云れ野村と神名帳の速
玉の神事見ゆ凡土記抄小連玉社在熊野村と云上
社の御事あるべし其下社あり能野神宮の御事あり坐
を以て天照太神の心行小事あり若くは女神の謂ある
小可き櫛御氣野命と申奉り大御名此素戔嗚大神
事あり櫛御氣野命と申奉り大御名此素戔嗚大神
の此熊野大宮の鎮坐す大御靈を稱奉れるありて其詞
小大穴持命の大三輪の鎮坐す御名をバ殊小倭大物

主櫛鷹玉命の御自稱へさせ給へるの對へる御名を
れバ此も其大神の御自稱ふてこそは御在り坐けぬ
備美氣濃の例ハ神皇義運章の所見たる鸕鷀草葺不
合尊の三毛野命稚三毛野命古事記小其示名を豊御
毛沼命の所見たる稲飯命小並給へれハ御食主の
義おて稲穀を以て稱奉れる御名ある小此も其如く
ありむを今一層委く云むハ御名主の字の義小
と有へき然して其毛と云ハ傳六丁小云る保食神
豊宇氣昆賣神お申す氣おて土毛の事を云あり若
て其土毛の用を成す所以を原ぬる小食物と成り衣

服と成り住宅と用る物實是あり己の其二百十九百
下辨へたるが如く此大神初保食神の御事九起り
て天罪のを犯し給ひ天上より神逐はれさせ御在し
坐て天降給ひ其より八国引の御政御在し坐て邦を
建給ひ天下人民の上より衣食住の事をバ弘給ひ幸給
ひて萬世の徳澤を敷給ひ流布し給ふが故に御毛
主と稱奉りて意ハ此滄海原潮之八百重を所知者す
御事ハ有けれハ素戔嗚尊と申奉るハ唯ハ其神性
の健く速き義のなるゆて此櫛御氣野命と申奉れ
るあむ此大神の功成し給へる上の御名ハ御在し

坐けれハ彼神逐はれ此國土の御在し坐着ての後
ハ受張りたる大神名あむ是ありけり又其御子大國
主神の和魂を大物主櫛玉命と申す大物主ハ大物
代主の對して物實の義あり櫛玉ハ御毛魂と申す事
おて其主神と御在し坐す此櫛御氣野命の御功用を
幽賛奉給ひて恩頼を天下の蒙らせ給ふ義あるを
併せて思ふ可き者あり凡て其魂神と申す例己の傳
先保食神と申す御食神有御對ひて其種蔭培養の事
を以て幽賛け給ふ宇之御魂神此の屬給ひ天照太
神の中より神の御在し坐す其警戸隱の時御坐
玉命相對へる御名ある又傳九九十三下十三註せ
る亦右の准へる御名ある又傳九九十三下十三註せ

越中国場原郡
熊野社

るが如く神名式に紀伊國牟婁郡熊野坐神社大御
在坐此地ハ伊弉冉大神の下津國小到_レ御在
坐ける地ハ其有馬村ハ御靈を留め_レ給へ
るが故ハ出雲と同トク隱野ハ義ありける後ハ出
雲國より其大神と素戔嗚大神との御靈形を遷_レ奉
りて所思_レ由有_レ已_レ云_レが如_レ若_レ此餘_レ也
諸國ハ熊野神社とて多在_レハ式内あるも式外ある
も皆其出雲の本宮より勸請れる者ハあむ有_レける同
式ハ近江國高島郡熊野神社丹後國熊野郡熊野神社
など所見たる是あり但共數多の熊野神社の中ハ

神名式越中国場
原郡熊野神社
有射水郡神谷
村神谷神社と云
式外の社有_レ其
祭神と大己貴命
と云_レ考合_レ下

眞の熊野大神ハ御在坐も有_レ又水分神を訛
りて熊野社と申すも有_レ趣あり其熊野大神を祝_レ
可_レき由緒無_レくして水邊_レ立_レ給へるハ其水分神
あるあむ多_レりける心を留て尋奉る可_レ其丹後國
和天皇實録ハ貞觀十二年九月廿一日_レ授丹後國正
位上熊野神從五位下_レ有_レ今久美_レ云_レハ海岬
ハ熊野山_レ云_レ有_レ其頂上_レ立_レ給へり_レ其川上
莊甲山村_レ地_レ有_レ甲山_レ神_レ立_レ給へり_レ其海
を隔て_レ神谷神社_レ申_レす右_レ久美濱_レ立_レ給へり_レ
今傳へ_レて大己貴神_レの神_レ劍_レを以_レて其山の磐石を_レ給
へる_レ詳_レ有_レ祭神_レを大己貴神_レと_レ又_レ磐石を_レ給
云_レて詳_レ有_レ祭神_レを大己貴神_レと_レ又_レ磐石を_レ給
神梨_レハ神奈備_レの_レ轉_レ郷_レハ熊野_レ神_レ社_レハ神_レ社_レハ神_レ社_レ
有_レ右_レの_レ神_レ山_レと_レ云_レハ神_レ谷_レと_レ云_レハ神_レ奈備_レと_レ云_レハ神_レ社_レと_レ云_レハ神_レ社_レ
更_レ共_レあり_レ○素戔嗚大神を齋奉れる御社多_レ御在し

此傳二十七
九注せり如神
式は播磨國
郡國神社の御
神にて御在り
可若

坐す中山山城國愛宕郡八坂郷ふる祇園神社を最
尊く坐す由已小傳十二八丁の註るが如し此御社の
御事を神社啓蒙の引る播磨國宰相記の吉備公歸朝
日於當山奉崇牛頭天王也歷年數後爲平安城東方守
護奉勸請祇園荒町に見え二十二社注式の牛頭天王
初岳跡於播磨明石浦移廣峯其後移北白河東光寺其
後移感神院と見えたる感神院是あり改曆雜事記の
貞觀十一年始天王從播州遷座有右の北白河の
移し奉れり云ある可し社記の貞觀十八年移八
坂郷と有る此感神院にて即今の祇園神社の始を

りける所祭ハ中央素戔嗚尊東間八王子西間稲田姫
命ある由諸説共の同し其八王子と申すハ謂ゆる疫
神めて其ハ根國底國より疎ひ荒ひ來る物を御め給
ふ障神サハシの坐が故に此大神の屬奉れりて當社の御
靈會も其神の起れる所由ふと已小傳十二六丁の注
り此素戔嗚尊を牛頭天王と申す事ハ甚もハ有よ
しく淺おしき事なぐ天王と申すハ備後風土記の
武塔天神と申し上タケ八丁の引る神祇令義解の彼熊
野大社の御事を天神の部の被収たる意にて天神々
云むが如し其ハ和泉風土記の和泉郡塚郷中有神号

廣峯より始て白川の南津土寺村の上あるウリウヤ瓜生山ウリウヤの影向坐し故あり感神天王を地主と成し出雲と云ハ素戔嗚尊ハ出雲国の神ゆて坐故ありと云る中ハ心行ぬ事も無ハ非れども奇くしき説あり此ハ就て考るハ神名式ハ山城國愛宕郡出雲井於神社大月次相嘗新嘗と有を臨時祭式相嘗ハ出雲井上神社一座と見え和名抄郷名ハ出雲伊都毛有上下と有る是あり清和天皇實録ハ貞觀元年正月廿七日甲申奉授山城國從五位下出雲井於神從五位上と有る此御社の御事あり橘經亮主説ハ出雲井於神ハ今の比比良木社を

云ふり古ハ別處ハ在しと後ハ今の地ハ移したるあり祭神ハ素戔嗚尊あり出雲と云も故有べし又按ハ小井於と申せば古ハ井上ハ社ハ有たるありむ洛東祇園社と尾張津島社も素戔嗚尊を祭りて共ハ井上ハ社と建たりと云ハ然る言ハて其井上ハ社を建ると云ハ此大神ハ一も根國底國ハ就坐しつる所以ハ縁れる者ある可し續古事談ハ祇園の寶殿の中ハハ籠宍有とあむ云ハ延久の頃燒亡の時梨木の座主其深さを測むと爲りけられバ五十丈ハ及びて猶底無しとそ保安四年山法師追捕せられけり小多

寶殿の中より逃入たりける其中の溝有り其の落入
 たりつるとぞ云けども有る此の龍穴に云は其井の
 事あるを例の然云成たりつる者あり斯りければ
 其素戔嗚大神ハ一井出雲於神社より移し奉りけむを
 其を主神として彼八王子あどを同神を播磨より初詣奉り中にて相殿のや播磨國より移
 して合せ祀れりけむを此彼共正しき傳を亡るひ
 たりける者こそ然思ゆる所以右引る注式ハ
 り吉備公の被祭たり初無跡於播磨明石津移廣峯と云
 の従来り依て其の就道饗祭あども西蕃の人共
 蕃客送臨待祭式ハ唐客入京路次神祭と云有て行ハれ
 云事の有明石ハ根津と播磨との國境の地にて共
 幾内塚十處疫神祭條ハ根津與播磨塚十と有る是ハ

公備此比良木社ハ
 就思合せり
 事有り西季物語
 追難の事を書さ
 固於我神社或ハ
 御菩薩池の邊
 奉事定まれば故
 實をかり見えた
 る此社神禱の心
 る者家も共社地
 ても何の本在れ奉
 る事かかぬみれ
 成れる家も其社
 地ハ移し奉り社地
 植たる其任れ
 愛する事人の知所
 り大正二年御紀
 奉居す唐庭軒社
 樹ハ吾神様と云事
 有る御古より此
 地ハ終小名高所
 ありけり傳九卷
 二百二十二下奉
 一詩ハ

當れハ此にて其障神を祀り
 移されて其ハ王子の素戔嗚尊
 疫神と祀られハ後ハ弘素戔嗚尊
 如く成りハ者ハ然ハ弘素戔嗚尊
 王子を合祀する事ハ吉備公ハ起りて其廣峯ハ始れ
 事あるハ京ハ弘素戔嗚尊
 尊ハ從神を加へたるハ皆素戔嗚尊
 播磨より移し祀れり如く成れるあり○素戔嗚大神
 を祀れる神社此彼猶外ハ多在る其一二を今思出
 り任れ奉り和泉凡土記ハ和泉郡山直郷有神号山直
 明神大足彦忍代別天皇御宇所奉崇神須依能雄尊也
 と見ゆ本國神名帳ハ從五位上山直社と有る是あり
 姓氏録和泉國神ハ山直天穗日命十七世孫日古曾能
 已呂命之後也と所見られハ其氏人の祖神として祀

△等の須牟地地名
と以て稱するは
後ありて此の
神須牟地と申す
本ありの神を
るを後地名を用
ひたり者や
紀伊國出雲國
か須佐の地名有
等一、可一備
此(準)須牟地の言
の上

れる者あり其並びみ石津連天穂日命十四世孫野見
み京の召れ宿禰之後也有る此人ハ無仁天皇七年
祢より三世後たれ其御子の景行天皇御世の野見宿
著初たる又同式み攝津國住吉郡神須牟地神社此の住
ふる可し又須無須無と有る是あり姓氏録未定姓未定雜
有ハ和名抄御名住道須無と有る是あり姓氏録未定姓未定雜
國み住道首伊弉諾命男須素戔鳴命之後者と所見た
れハ其大神の祀れるあり可し備此住道み別み中臣
須牟地神社大月次須牟地曾祢神社有る一ハ中臣氏
の祖神と聞え一ハ曾祢連の氏神と有る此ハ神字を
冠しせたるハ此第三一書ハ其素戔鳴尊断蛇之劍在
吉部備神部許也と書され地神本紀る此大神の御

齋小神部直大神部直みど所見たれハ此大神み就て
添たる言あり然れハ住道の地名ハ進貴スガヒの義て此
神社あり起れるる可まり斯れハ神進貴スガヒ尊と申す
亦名も御在し坐けるこそ但家持集ハ住江のニ路
れぬ事痛ま哉と詠れハ住道ハ大和國ウ方り住
吉郡ハ至る道路の義ハもや有るむ推量説ハ我が
す後人能く定む可し尾張國本國神名帳ハ愛市郡從
一位素戔鳴明神と有る此ハ熱田神社録ハ摠ハ熱田
神宮の西六社と云中ハ從一位素戔鳴神社と有る見
あり此事ハ其神宮の御事を注し奉る因ハ傳せ五十
一ハ云ベ一同帳ハ知多郡復男神社天野信景ハ帳考

△下云播磨国
速武雄神備後
国天照麻呂建雄
神と同例を事

小須佐村八劔宮歟と云り然れば須男ハ進雄の義カ
事云も更なるが八劔宮と云稱も此大神を祀れる
社号ある由傳廿五五十一云を合せ見る可し右ハ式
内ハ二
日命十一世孫物部真麻連公須佐国造等祖と云るハ
此地小因れ又同帳ハ海部郡正位津島牛頭天王神社
啓蒙ハ素戔嗚尊中稻田姬東ハ王子西有て世ハ名
高き津島祇園社是あり天野信景ハ鹽尻ハ其祭神
の異説を書して中素戔嗚尊左大己貴命右少彦名命
と云り門真私記と云物ハ素戔嗚尊ハ和魂韓國より
歸朝坐ハ津島小留り給ハ後尾張國ハ移り坐て新ハ

一島を起して永く鎮り坐す孝靈天
皇御宇其地を津島渡と
云ハ津島里と云ハ元号藤
浪里神代ハ歸り給ハハ荒魂
ありと云るハ此社傳と聞えたり然れとも啓蒙ハ載
て社家注進狀云人皇三十代欽明天皇元年己未未臨
于此地矣又毎歳有御葦神事者ト國中疫疾變異等と
見えたれば帝王の歷代ハ二十四世年數九八百二三
十年の差有ハ今何れを正しとも定む可くざれと
其國人仁位信精と云人の對馬島の事を書ハ物ハ考るハ神名式ハ謂ゆる上
縣郡島大國魂神社是其本宮あり其社記家私ハ上縣郡豊
崎郷豊村島首明神ハ祭神素戔嗚尊あり素戔嗚尊新

大ニ輪神の宗
ふり依て御祈禱
有るハ皇祖意
豊村の着せ給ふ此
小因て皇后

羅國曾尸茂梨の地不到給ふ時先此島小鎮給ふ此島
神威有て古來より人登る事能はず若誤て磯邊小寄
事有れば忽ち崇給ふ所以此島小社無く唯此一
島を以て神社とし嶋首明神と称す社島ハ豊浦の東
小在り海上六町許あり此島小奇石多ク泉流る昔神
功皇后新羅國御征伐の時網懸の沖にて大三輪神崇
を成給ふ依て皇后親此島首明神を祭給へるハ大
三輪神を配祭り島首明神を以て本神とし大三輪神
を以て那祖師明神と号し二神一体として遙拜所を
豊村の濱に建て祭給ふ即島大國魂神社是あり又事

代主命をして島大國魂御子神社に祭る今若宮と
稱して那祖師明神の攝社とす又同郡三根郷佐賀村
宗形明神の攝神祇園神社所祭素戔嗚尊小一豊村
島首明神あり神功皇后新羅國凱旋の時此村小着せ
給ひしハ即島首明神を勸請し給ひ嶋首明神と号す
欽明天皇の御世小尾張國小勸請し給ふに至て直小
号を稱して津島神社と稱す今祇園と稱せるハ清和
天皇より以後の号あり以上と云れば孝靈天皇御世
の事と傳へたるハ誤ありトる小て然れば此津島
も其豊村ある島大國魂神社を島首明神と申し其よ
り佐賀村のれ移して祭より尾張小共島首明神を

神名式十遠江國
 敦智郡角田比古
 神社大神文徳天皇
 實録嘉祥二年八
 月戊申詔以遠江國
 角田比古神社先
 是彼國奉言此神
 業社敬臨大朝水
 所慨奉土頼利湖有
 則民被水害湖田則
 氏致豐穰或國或家
 神實為之請加崇典
 為氏祈利從之有
 上田百神説遠江土
 記十角田比古神社浦
 主田有百平束三言
 宣化天皇九年丙辰所
 祭奉嘉祥二年八月
 比古者尊の異名也
 七年御紀の強力に能
 毀用申釣の有る意
 定は當れり云々實
 子然の洗を利

勸請れりありけり和名抄郷各小尾張國海部郡志摩
 と有ハ若くハ津島神社の地小て本國なる島神社の
 稱を用ひたり又駿河風土記小安辨郡小梳神社所祭素
 り一ハこころ又又駿河風土記小安辨郡小梳神社所祭素
 受鳴尊與奇稲田姬命也武藏風土記小足立郡氷川神
 社孝照天皇三年戊辰所祭素受鳴尊大己貴稲田比咩
 合三座也と有る此二社の御奉ハ事の因有て己ハ上
 十九丁又百ハ云り又近江風土記小淺井郡國本神社
 七十六丁又百ハ云り又近江風土記小淺井郡國本神社
 所祭素受鳴尊也と有ハ神名式小載れり國本神社の
 御事あり和名抄郷各小國本_{モ止}と有ハ此地ハ因
 れる社号と聞内又式小其並小片山神社二座と有ハ
 就て考ふる小山城國愛宕郡鴨國本神社片山御子神社

能登郡志伊
 奉大後比咩神
 八其神小後
 給小事上
 百丁工ホカ
 天國至却

大月次相 有も由有げある事共あり又美濃風土記小
 嘗新嘗 渥美郡莊神社三座所祭素左能雄尊稲田比咩大穴持
 命也と有る此ハ式外あり所祭祇園津島氷川おどめ
 社例ハ異あらず此ハ限らず凡て此三神ハ何れの社
 て神名式小能登國羽咋郡氣多神社ハ主神大己貴命
 小御在ハ坐す事申すも更あるハ彼名勝志と云物ハ
 本殿ハ大己貴命奥社ハ素受鳴尊大稲田姬命と云由
 云離レ此を以て御夫婦ハ坐す御親子ハ御在ハ坐す
 相離レ此を以て御夫婦ハ坐す御親子ハ御在ハ坐す
 洲郡須_ニ神社ハ出雲風土記國引文ハ神謂ハ高志
 都_ニ御事_ハ又但馬風土記小出石郡久畑郷有神号久
 尊_ハ御事_ハ又但馬風土記小出石郡久畑郷有神号久
 思_ハ御事_ハ又但馬風土記小出石郡久畑郷有神号久
 畑明神所祭素佐能鳥尊也春秋以午日祭之と見内此

郷和各抄に見えず神社延喜式に被載さりければ中
古よりの夏小ても有む今久知村一宮と云々又神名式に雲国出雲郡
阿受伎神社有る次小同社須佐袁神社有る其阿受
伎神社ハ味耜高彥根神の御在り坐て大神の御孫小
當りせ給ふ故に同社小御在り坐す御事あり然
る（正）杵築大社大神を一も中古より此大神を祭れる
如く云ハ甚一き僻事あり由已一先師等の論并りれ
た一るが如し又同式の御碕神社ハ傳十五四百七丁云る
が如く此小上社下社有て此處謂内子宇迦山之山
本あるが名神記の上社ハ東水神ハ握髮者素戔鳴

△和夫那

△或説ハ海部郡
宇加命神社名
神大足赤り
云り傳三十三卷
二十一丁云ハ

別稱也蓋八極鬘生之縁矣有て此大神の三女神と
共小御在り坐す本宮あり（奉）又同式飯石郡須佐神社ハ
此大神の后神の宮處あり由已三百十丁云りき又隱
岐国神名帳の正三位山健酒佐能雄明神と云有る合
せ陽成天皇實録の元慶八年三月廿七日戊子授隱
岐国正六位上健酒須佐雄神從五位下と所見たり此
の事今考ふ可き午著無（傳）十五卷四百八丁註
或ハ見えたる由良（此）神（社）周吉郡玉若酢命神社
地郡水若酢神社名大神（共）小其御女須勢理毘賣命
を何れとせ給へ（此）大神（式）内（中）御在り坐す
知川難（又）清和天皇實録の貞觀八年七月十三日
授播磨国無位速須素戔鳴神速風武雄神從五位下

△考澄の傳
 國勝戸郡射楯
 兵主神社二座
 有山當れども射
 楯五十楯金兵
 主大己貴命を
 る事やが奉り
 ま説有れ叶
 はず

と有も今詳あざる社あり、此速風武雄神と申す
 も異神のハ非るや其ハ速風ハ發語の如き物ハて
 武雄ハ云狀を形容りたり者語と所見たり此大神の御
 名の上ハ速速と冠し奉れるをも思合す可し又同
 式ハ備後國深津郡須佐能衰神社上田百樹説ハ同録
 ハ貞觀三年十月廿日 授備後國正六位上天照麻
 良建雄神從五位下と有る此ハ若然ハ天照ハ月照
 の義麻良建雄ハ眞荒健男の義ハて即須佐之男命と
 申ありと云ふハ然る説ありを諾ひて傳ハ三五十ハ委
 しく注せるガ如し此建雄ハ右ハ速風武雄の武雄ハ

同トき事ハ引る尾張國知多郡從三位武雄神名神の例ハ思
 准へて曉可くこと傳ハ五十四ハ許ハハ考合ナリ又神名式ハ周防國佐渡郡
 神社所祭素戔嗚尊あり社記ハ神功皇后三韓を言向
 小御在り坐ける時實劍を奉りて勝軍の御事を祈り
 せ給ふ其劍ハ今ハ傳へて神体と成れり此ハ依て劍
 神社と云と云り清和天皇實錄ハ貞觀九年八月十六
 日 授周防國從五位上劍神正五位下と所見たり
 同郡出雲神社二座社説ハ祭神大己貴命事代主命ハ
 る由云ると所縁有げある御事ハ亦此劍神社の神
 就て思合す事有り其ハ上ある尾張津島社劍の下の云
 對馬島上縣郡豊崎郷豊村島首明神ハ素戔嗚尊の

○日本書紀傳二十三
 ○三百三十六

神職無官而奉仕于余以神扉之闔闔如俗民之闔房又
務名利而忽遇于我兵早可脫名絆利羈也伊馭祁曾
嘗曰何不罰彼乎然余以為此社家累世奉我者也故赦
焉同三年十二月五日保田莊民群聚從託宣相走馬場
如舊規則田園多廢唯當以西山麓為馬場衆額而規之
一人急來云祇今神又託曰汝輩不識乎西山不淨之地
如古自第二之華表直準而可規之群民聽而驚止之曰
已暮矣又曰今止西山之士功心好哉是今所不欲也十
二月十三日遂託宣繩規之明年正月十三日起土功莊
民老弱子來十六日功竣矣自茲年以九月十四日祭同

年疑曰神之靈驗實可崇也然是亦狐狸之所為歟即時
神託曰只今當良方者以我為狐狸我當罰左近衛門聞
之驚焉請容宗僧而讀般若心經神又曰只今請僧誦經余
元不好佛經然以彼驚恐赦之慶安元春社家時將營神
輿興上野山左近衛門俱赴南京命工而先容之秋九月功已
就矣欲遣人而未之夢神告曰此般村民損財而購興吾
甚喜之然取不淨者之財交于輿若未中路而當毀敗矣
時將駭而探之中島村春內之穢者之鎖文之去此堂之
物而債終不毀敗矣云云以又天正七年元知元年正保
四年慶安元年同二年同三年等之神威之事社家傳記

公傳二十八卷六
小云り考合す

及古老の傳小在り云り此を以て古より定めし神
祭の日を易ふ可うらざる事無官ありて重き神社小
仕奉る事又名利を務めて神事小實無き事又不浄の
地を神祭の用か充る事又神の靈威を疑ひて狐狸小
託する事又^{僧徒を社に附け}漆紙を神小聞え奉る事又織者の物を取
て神物と成す事あとの大禁有る事を知べきあり世
神異を云ふ輩唯神祇の威靈有る事の表を説て其神
慮の裡を見ざる如^{何ふぞや}共ハ一向ハ神道者了
簡と云物例^{の費藥師}の大道を説く事ハ心^{を深く}盡す
ざる譬^{の如}又同書^{の能書}の昔任^{大和}國^{芳野}郡^之西
川峯^の地^移子^此國^出現^神立^神在^昔任^大和^國芳^野郡^之西
創社^然れ^予が^考ふ^取て^少昔^の事^無し^又云^く事^論を
待^予然^れば^予が^考ふ^取て^少昔^の事^無し^又云^く事^論を

正月^初卯^日伊^太初^曾社^官十二^人來^而參^社吾^神蓋^以
為^伊太^初曾^社官^{十二}人^來而^參社^吾神^蓋以
名^草郡^伊太^初曾^社官^{十二}人^來而^參社^吾神^蓋以
小^て即^大神^の御^子五^十猛^命ハ^て渡^るせ^給ふ^不り^病
注^傳一^二七^七卷^小
傳^一二^七七^七卷^小

右安政四丁巳年十二月十七日始之同五年三月十五日
終之同十二月二十三日甲子與書焉

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

辛酉此奉流事波志嘉永乃七年止云年乃七月尔麻蕪比
乃大御鏡年邊津宮尔納奉礼並尔合世劍止玉止三種神寶
辛捧仕奉止年頃心尔係奉利事成尔志加婆去年乃十一月乃中
卯日尔從此奉出須為尔其筑前國人江上武述尔令世贈奉
利初十二月乃四日尔出立志其二十四日止云尔其福因流
江上許著世給比今年乃正月四日尔其弟伊中津島尔
持渡利参往尔三劍此春祭尔瀛津島尔納奉止為尔其裔
殿尔假尔裔奉利清伎真玉波中津宮尔鎮米令仕奉尔某甲
我子孫乃八十連属尔傳尔皇御孫尊乃長御世乃遠御世尔
清明伎公民止為尔裔在利清在利持恐美恐美崇利仕奉

10 日本書紀傳二十三

久目乃耀久黄金乃御靈形乎常毛願思布心足此令賜給武
止事乎令卜相奉初流大神乃大御心尔相叶此瀛津宮余授賜
波久現志久論給閑流合世中津宮余利大御靈物乎事依志
授賜布可伎神告乃大座坐此四月尔迎申志参渡利來止
云由半其仕奉流神主共余玉梓乃書便尔告遣世又其事尔
就波豫尔契置流如久邊津宮乃御璽乎賜利三前大神乃御
身形乎我家尔齋奉利天地乃共弥遠長尔仕奉湯可伎此權
乃志獨我家乃章耳波不在此皇大御學尔仕奉流天下諸人
毛章止那嬉備受賜利恐美受賜流可伎壽詞尔仕奉利又年
遍久禱奉利玉敷伎平乃宮都尔大座坐須宗像大神乃新宮

下乃人等伊國中乃神社乎拜美仕奉礼齋場止知尔有初礼
吾祖乃仕奉流大神乃御社尔坐尔吾又大神乃御蔭尔依利
其御氏子乃人共尔輔相良延皇御孫尊乃御為天下乃為万
世乃後代乃為尔神世乃古事乎明良上代乃古傳乎悟利如
此久此日本書紀傳乎著述志仕奉流尔糧無尔何曾一日毛
安久仕奉流事乎得尔物互久尔片時毛心平尔力尔事乎得
尔楊尾山乃惠乃露尔潤澤此奉利天乃八十蔭尔覆尔餘流
許乃御蔭尔隱尔奉礼流祖止云此子止云此少縁乃所以婆
非受奈有初礼等閑尔思奉志可奉尔非尔事尔賀某甲唯一
世乃美子孫尔不傳流事將甚心苦志任尔常毛口止受云事

奈我猶事毛云比子毛聞世八丘尔立流乃本末不令忘
止為毛愈毛我產土大神止永久遠久仰社奉利共御祭子
孫乃八十連綿尔不令忘止誓奉毛有和自今年波萬尔昔
尔勝利心足尔愛久善波志仕奉久又其国乃皇神等波申須
更利常毛我神床尔令坐奉毛齋仕奉流限乃神二波上波高
天原尔神苗坐須諸祖天神余始奉毛八百万乃神等下波滄
海原潮之八百重尔所知者須素戔嗚大神所造天下大神止
神事所知者須大已貴大神尔始奉毛天社国社乃皇神等山
野海河乃諸神等尔一柱毛落流事無久漏流事無久招奉利
令坐奉毛相嘗仕奉流中尔殊尔抽出毛我宗像乃三前大神

奉告日本書紀傳二十三卷稿成且為奉迎宗像大
神欲發達於筑紫國之由相尾宗像二所大神
及天地神祇文
每年乃弥生尔望日尔生日乃足日止定未其御氏子乃人共
等諸常例止為毛神幸成志奉利其行宮尔於毛大御饗仕奉
止美礼尔某甲我此仕奉流皇大御學乃為尔我宗像大神
止睦靈相尔朝夕尔守給比惠給比助給比章給布可伎幽深
伎致毛加有尔良尔微尔炊尔趣毛加有尔都良所思久富志日每尔尊尔伎高
伎廣尔厚尔御恩賴尔蒙奉尔留任尔某甲尔本生乃淡路国尔
坐須產土大神又此住尔武藏国乃地主大神止相並毛三枝

乃三所乃御社共年後礼前立流事無久親志疎武差異無久
相等同志任奉末礼任尔每年乃此御祭日波百重山隔在流
事毛忘礼千里放亩事毛思受家内乃者共打奉利親族字聚
米朋友毛集毛其大神乃御許尔在其神遊乃祭場示侍良
思字成志惠二良二尔爾奉利德奉流事年遍久有初流去年
乃十一月乃中卯日宗像大神尔劔止玉止二種神財字捧仕
奉利此紀傳乃五卷尔當流卷乃再稿成流礼權乃御祭仕奉流礼
共项志吾祖尔從五位下出羽大椽總績朝臣重盈止云尔人
有其國宰仕奉流事有初利物尔見出多流已久考出初利
波我八尋杵福尾大神毛波志其國乃惣社尔大座坐尔國司以

造利善久波志成整比十二月乃十七日毛那志都宮尔鎮利定利
大座坐止聞尔此三月乃下旬尔其新宮拜尔参往尔將筑紫
乃宮波其御靈字迎奉止出立尔都就毛其權比榮由流心緒字崎
門山乃奥津浪千重浪尔頻尔聞上初仕奉久為尔今日乃朝日
乃豐榮登尔宇豆乃大前尔鹿自物藤祈伏折世鷄事物頸根突
拔尔八度伏比世良八度拜美仕奉利百取乃机代止捧奉流物
波家内乃者共乃心毛淨尔伎清酒尔甘酒乃白伎御酒字懸上
高知利甄腹滿並尔称辞竟奉利朝尔波真玉乃如久磨尔岐精多初
流美飯乃大御饌字八十平尔瓦取並尔奉利父尔波尔聃尔聃尔太
味魚尔燒尔大鷄卵煮尔太推茸削尔太笋刻尔太蓮根干尔太瓢海老乃

○日本書紀傳二十三

凡切半酢半浸志飯半和太留大御饌半大山小山疊我波留如久
八盛半盛色種二乃汁物品二乃御贄止共尔称辞竟奉利大
野原乃物波甘菜辛菜大海原乃物波荒藻和藻尔至流迄尔
五色乃絹絲荒妙和妙乃大御服物大伎小伎劍半始尔棒奉
良久皇神等乃大御心毛明尔加平尔安尔所聞食尔掛尔麻尔恐
伎皇大御典半說奉利神皇乃大道半天下尔萬國尔國乃為
尔人乃為尔明米良仕奉流總積朝臣重胤我許白煩半由半
聞食閉白尔常毛白志事舊尔太申事尔在尔我宗像大神乃
御手打掛尔引寄尔世導給流任尔搗尾大神乃召給尔治賜閉
御靈尔資尔其御氏子乃人波更利加茂鶴岡乃八十人乃助

尔依尔耕志績久煩無久妻波家尔在尔内事半取擬此子波
外尔在尔物學為都我業半兼流下構半成志有尔皇神等乃
事寄志授給布職止某甲我可勤尔勉尔波志唯此日本書紀乃
傳半可仕奉尔業耳志有尔初礼朝夕晝夜止無尔久此業乃尔
可携尔身止非尔奴尔去年乃十一月乃下旬尔始尔氣吹舍乃徒
吾學半妬美妨尔其下風尔令在尔種二乃爭論半起志攻寄
采利又同自志毛止非尔奴俗人乃出入繁尔成以尔行尔可惜日
時半費須事日每二尔在尔學問乃為尔許多乃煩比多久
又不須也凶目心穢尔惡逆在尔奴在尔皇神等乃授賜閉吾財
半欺尔奪尔返尔受其為尔心半痛尔身半苦志此尔行尔彼尔

走利怠利休布日不少那在氏今年乃春字係氏平年乃半毛
不至流此等乃福事乃打續使多良神止君乃止御為年可仕奉
止思勤年志心毛空志成代何乃世何奈時半待毛成流事半
得年吾學字妨祁吾財字奪比吾家字煩波惡使入織伎人波
神皇乃大道字茂如志奉流甚狂志倭人志有禮近著氏
吾為年好介久非受那有流是以申婆久家內波屋船命乃御
守厚久門邊波御門神乃御禁強久岐神波道俣尔障氏彼振
國底回利麓備踈備來物尔相交利相口會氏心毛清如良行
毛思在流人乃久那多夫礼波吾許尔未流事無之未入居止
皇神等乃健伎雄二伎大御稜威字打振比天座坐氏牙由氣

矢刺良迨麻久流我如久神掃尔却排祁給比唯神直日大直
日乃御靈賜比某甲我家字起志身半令立氏此皇大御學子乃
業尔相共二尔力字戮世心字一尔為氏此學業字受繼伎弘
某甲我此誓比立流功名半千名乃五百名尔可令立伎人
止有邊千人五百人毛睦比令集給比金銀字掠奪布如伎倭
人乃煩波今日字限氏生涯世尔令勿給比家毛安久身毛平
加令在給比此二十三卷止云余次二速二止著述志仕奉半
事尔年躡比足躡比不令為氏神代乃故事字過事無久正久
直久唯有尔有乃隨尔愛久善志皇神等乃幸魂奇魂預相致
志神乃御言止吾言尔僻一伎事無久十卷八十言三傳開天

日本書紀傳二十三

青島市立圖書館

文庫

地止日月止共尔天下字照臨美坐年皇御孫尊乃大御世字
 手長乃大御世止堅石尔常石尔齋奉利茂乃大御世尔幸奉
 利天下平穩志公氏富榮志給此此天皇尊乃御指止成尔仕
 奉流此大御學乃勢灼久天壓神乃大御稜威真盛尔大座坐
 爾夷八蠻乃侮尔利不令受尔物部乃八十乃心尔一尔成尔
 海外乃爾長尔打從爾御馬飼乃役尔可召給伎時尔速尔令
 得給此寶祚之隆當與天壤無窮矣尔止仰給爾利高光流日太
 御神乃大御命乃駿尔今尔連尔顯示給爾負氣無尔事奈賀
 良毛皇神等尔誓白尔此日本書紀傳尔仕奉流吾心尔聞食
 志愍給爾恐美尔恐美禱申尔給尔白須

明治七年七月十八日校合之

